

歓喜
情熱
感謝

聴いてください。――。

黒部市制施行50周年 / 北日本新聞創刊120周年記念
<第7回>

名水の里

第九コンサート

<黒部国際交流音楽祭>

L.V. Beethoven
symphony No. 9

■主催 / 黒部で第九を歌う会・北日本新聞社・北日本放送・富山県合唱連盟・(財)黒部市国際文化センター
■共催 / 黒部市
■後援 / 黒部市教育委員会・黒部市芸術文化振興協会・黒部ライオンズクラブ・黒部ロータリークラブ・黒部中央ロータリークラブ
黒部青年会議所・黒部商工会議所青年部・くろべ女性団体連絡協議会・岩井理花友の会
お問い合わせ / コラーレ TEL (0765) 57-1201、黒部で第九を歌う会事務局 TEL (0765) 54-1339

歡喜
情熱
感動

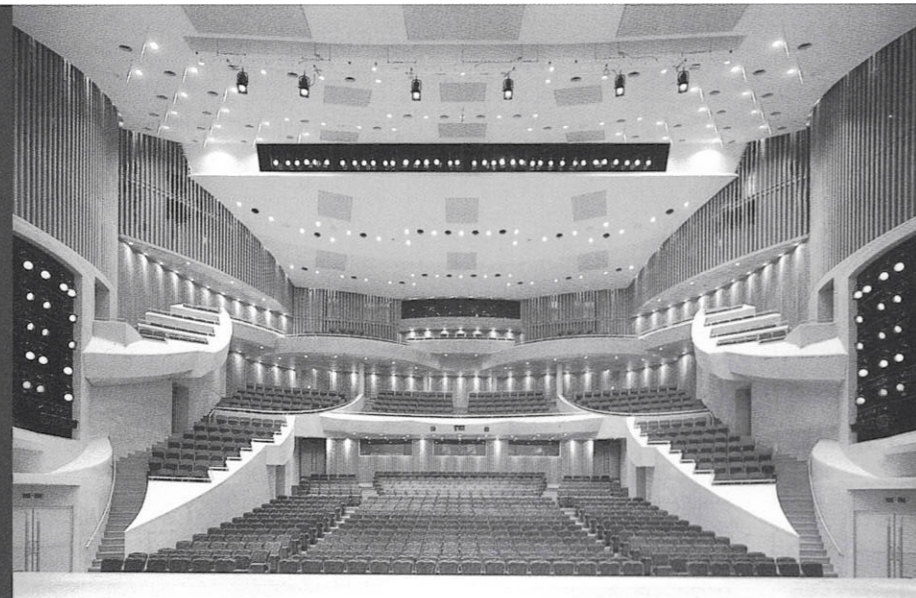
L.V. Beethoven
symphony No. 9

Program

ベートーヴェン : 交響曲第九番ニ短調 作品125「合唱」

ヨハン・シュトラウス: 喜歌劇「こうもり」序曲

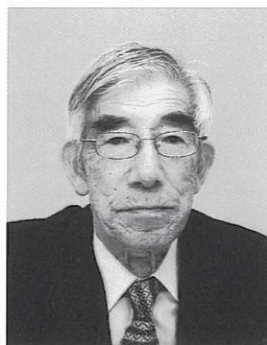
- 指 揮 ● エイドリアン・グナム (メーコンシンフォニー常任指揮者)
管 弦 楽 ● 富山シティフィルハーモニー管弦楽団
ソリスト ● 岩井 理花 (ソプラノ) 阪口 直子 (アルト)
五十嵐 修 (テノール) 末吉 利行 (バリトン)
合 唱 ● 黒部で第九を歌う会、スネーク市民合唱団、根室市民合唱団
合唱指揮 ● 浅岡 節夫



2004.11.7

会場 / 黒部市国際文化センターコラーレ (カーターホール)

歓喜 情熱 感動



黒部で第九を歌う会会長
森丘 實
Minoru Morioka
Executive Director, International Music Festival
President, Beethoven's Symphony No.9 Choir



黒部市長
堀内 康男
Yasuo Horiuchi
Mayor of Kurobe



北日本新聞社代表取締役社長
梅沢 直正
Naomasa Umezawa
President, Kita-Nihon Newspaper

ごあいさつ

コラーレに響き合う『国際交流の歓喜』も今や7回を数えるようになりました。これまでにご指導・ご支援を賜りました富山県黒部市など広域自治団体・YKK株式会社、はじめ関係商工会議所、関係各位にあらためて厚く御礼申し上げます。こうした時、姉妹都市であるオランダ・スネーク市から、また国内からは根室市民の皆様との参加交流の申し込みがあり、ともどもに喜びを大きくすることが出来ました。そして『黒部市の市制施行50周年式典』にわたくしたち「黒部で第九を歌う会」も全員でお祝い申し上げたいと存じます。

響け 名水の里 黒部に歓喜のハーモニー

黒部が世界遺産の名所のきずなとなるまで。

お祝いのことば

黒部市制施行50周年記念『第7回名水の里第九コンサート』が、ここ黒部市国際文化センターコラーレにおいて盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。今回は、メーコンシンフォニー常任指揮者エイドリアン・グナム氏をはじめ姉妹都市のオランダ・スネーク市や根室市から市民合唱団の方々をお招きになるなど、これまでの実績を更にグレードアップした企画内容は、まさに50周年記念事業にふさわしく心から称賛の言葉を贈ります。黒部で第九を歌う会の皆様には、音楽を通じた地域文化の創造を担う伝道師として、これまで各方面に計り知れない影響を与えとともに確固たる地位基盤を構築され、その情熱と実践力に対し深甚なる敬意を表しますとともに、皆様方の活動は本市の大きな誇りでもあります。国際色にあふれ心をつなげた歓喜の歌声は、自由・平等・世界平和への祈りとともに黒部市の新たな50年に繋がる素晴らしいハーモニーとして、観客を魅了し、いつまでも市民の胸臆に刻まれることでありましょう。本日を迎えられるまで、ご支援ご協力賜りました関係諸団体・関係各位に厚くお礼申し上げますとともに、会員各位に重ねて敬意と謝意を表しつつ、本日のコンサートの大成功をご祈念申し上げお祝いの言葉いたします。

ごあいさつ

このたび、2年ぶりとなる「名水の里 第九コンサート」が盛大に開催されますことは、喜びにたえません。市民の熱意によって1993年に初めて開催されたこのコンサートは、7回目を数えます。今回も「黒部で第九を歌う会」のみなさんを中心にした市民による手作りコンサートで、「第九」にかける市民の情熱に敬服しています。4ヶ月にわたる厳しい練習が実を結び、素晴らしい歌声をホールに響かせてくれることを期待しています。また、国際交流の盛んな黒部市らしい特色を持つ「第九」であり、今回も姉妹都市の米ジョージア州メーコン市からメーコンシンフォニー常任指揮者のエイドリアン・グナム氏を迎えるほか、オランダ・スネーク市、国内姉妹都市の根室市からも合唱団員が参加しており、大いに交流を深めてもらいたいと思います。北日本新聞社が毎年行っております「第九交響曲 歓喜の夕べ 2004」(12月22日)も今年第40回という歴史を刻みます。黒部、富山の「第九」がともに成功し、高らかな歌声が大勢の聴衆に深い感動を与えることを願ってやみません。混迷の度合いを深める現代社会で、シラーの詩「人々はみな兄弟となる。その歓喜をともにせよ」をテーマにした「第九」は、聴くものに大きな勇気と希望を与えてくれることでしょう。終わりに、開催にあたりご協力を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。



北日本放送代表取締役社長
横山 哲夫
Tetsuo Yokoyama
President, Kita-Nihon Broadcasting Co.



富山県合唱連盟理事長
中村 義朗
Yoshiro Nakamura
Board of Directors, Toyama Chior League

ごあいさつ

「名水の里第九コンサート」の開催おめでとうございます。今回は黒部市制施行50周年を記念した国際交流音楽祭ということで姉妹都市のアメリカ・メーコン市、オランダ・スネーク市、国内からは根室市から有志の皆さんが参加しての「第九」だけに本当に楽しみです。「水と白夜のまち」オランダ・スネーク市の合唱団と「名水の里」黒部の皆さんとのコラボレーション。メーコン市からお迎えしたエイドリアン・グナム氏の指揮棒で黒部川扇状地から湧き出した音楽の泉がベートーヴェン第九交響曲の理想のかたちとなって世界に響きわたることを期待しています。

「第九」の精神は人類の願い

黒部市制施行50周年、北日本新聞創刊120周年を記念し、第7回名水の里「第九」コンサートが盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。「第九」の作品の完成が1824年、その後、世界や日本における公演回数とは問われても想像することすらできません。合唱付の交響曲として、これ程幅の広い層で演奏される作品はこの作品をして他に類をみる事ができません。演奏は音楽的にも、技術的にもそれ程容易なものではありませんが、日本において年末に多くの合唱人によって歌われることに驚きすら感じています。作品にはつねに新鮮な魅力と新しい発見、そして人々の願いが秘められているからに違いありません。指揮者や指導者の立場からにしても、今年の「第九」はこんな演奏にしたいとの創造する魅力があるのです。黒部の「第九」も回を重ねることに充実した演奏となり、その歴史に新しいページが綴られていきます。そして、協演者の「心と音」が響き合う中で必ずや聴衆の感動を高めてくれるに違いありません。ご盛會を祈念しております。



歡喜
情熱 感動



Adrian Gnam

指揮者：エイドリアン・グナム

黒部市との姉妹都市、
アメリカ・ジョージア州マーコン市より来日。

マーコン・シンフォニー常任指揮者
エイドリアン・グナム氏



シンシナティ大学音楽学部卒業。
ビエール・モントー氏、マックス・ルドルフ氏、ジョージ・セル氏に師事。
クリーブランド・オーケストラ、またアメリカン・シンフォニー・オーケストラにて第1オーボエ奏者として活躍した。ユージーン交響楽団の音楽ディレクター、フィラデルフィア交響楽団の客員指揮者、シェイヴポート・サマー・フェスティバルの音楽ディレクターを務める。また、国際芸術者基金の音楽プログラムのディレクター、オハイオ大学音楽学部の助教授、シンシナティ大学音楽学部講師、ヒューストン大学客員教授を経て、マーサー大学客員指揮者に任命される。
1983年からマーコン・シンフォニーの常任指揮者、指揮者協会前会長。
米国各地における活躍も目覚しく、アラバマ、ジャクソンビル、フロリダ、インディアナポリス、プエルトリコ、そしてシンシナティなど各地の交響楽団、ユージーン・バレエ団、ミズーリ・オペラ劇場など数えきれないほどの楽団と共演している。さらに、海外ではルーマニア、ベネズエラ、イタリア、メキシコ、ユーゴスラビア、ブラジルなどのオーケストラとも共演を果たしている。

ゲスト出演

オランダ・スネーク市民合唱団

ソプラノ Hiske Uilkje Landman
Geesje Brugman
アルト Liduina M.M. van der Veer-Schaper
Femke Hendrika De Boer
テノール Engelbertus A.F. Tiel Groenestege
Henk Eigenraam
バス Jan Hibma
Juco Wester

根室市民合唱団

バス 鈴木 一彦
アルト 苫谷 和



富山シティフィルハーモニー管弦楽団

県内初の社会人オーケストラとして、1983年に誕生。以来、県民に愛されるオーケストラを目指して活動を展開している。オーケストラ演奏をこの上ない楽しみとするメンバーたちは、現在100名あまりを数え、週末の練習に県内一円から活動拠点の富山市芸術創造センターへ集まってくる。団員の平均年齢は、30代前半であり、家庭においては子育て真っ最中という人が多いので、練習の際には託児室を設けて活動をサポートしている。
主な活動は、定期演奏会をはじめとして、地域コミュニティコンサートなど年間3~4回の演奏会を実施しており、毎週の練習もアットホームな雰囲気の中、充実した内容で行われている。また、全国のアマチュアオーケストラとの交流にも積極的に取り組んでいる。

■メンバー

Violin	中川 洋司 沼田 典子 佐々木利佳	丘山ひろみ 松下 タエ 竹島佐紀子	塩崎 章子 宮木 義治 橋屋 幸美	高橋久美子 米沢由佳子 廣田 弘美	仲西さやか 宮本 範子 松下 亮	中村 里子 朝木 晴美 又場 龍大	名執 純子 上田 洋子 米丘 博
Viola	東 ひとみ 高野由貴子 松島真二郎	大森 祐子 寺崎健太郎 吉田 彰	高田 亮二 中田 芳松	Cello	江川 朗子 島田 一恵 広田 弘毅	川東美千代 素野亜希子 朴谷 修	島田 育子 西谷 英輔 松島健一郎
Contra bass	上野 泰孝 吉澤 克仁	福原 祥公 表 貴之	藤島 晃彦 柳沢日出夫	Flute	石田 孝弘 山田 直矢	伊藤ひでみ 吉澤美和子	竹森 恵美
Oboe	北岡 明 松嶋めぐみ	北岡 佳苗	保科 浩一	Clarinet	大田 昌子 横井 省二	佐々木桂治	古川 友紀
Fagotto	梅岡さやか 永原 秀樹	篠崎 秀一	永原 千春	Horn	上野 祐子 坂井 禎 安川 幸治	清田登志子 宅美 俊史	川添 等 中島 浩史
Trumpet	上田 未佳	古井 清紀	南 昌樹	Trombone	大田 昭男	岩城 悟	小森 英芳
Percussion	高本 篤志	長嶋 千尋	花房 清直	山口 雅美			

Solist

ソプラノ 岩井 理花

黒部市出身。東京芸術大学および同大学院修了。
日本ではもちろん海外でも数々のオペラに主演として活躍し、日本を代表するソプラノ歌手であることはいうまでもないが、昨年度は2度にわたりルーマニアにおいて「マダムバタフライ」を演じ聴衆のスタンディングオベーションを受けた。最近の出演オペラでは、“東フィル・コンチェルトアンテシリーズ”におけるヤナーチェク作曲「イエヌーファ」のタイトルロール。またシュレーカー作曲「はるかなる響き」の主役グレーテ。モーツァルト作曲の「コシ・ファン・トゥッテ」ではフィオルディリージ役。新国立劇場ではワーグナー作曲「ラインの黄金」のフライア役。ヴェルディ作曲「オテロ」のデズデモナ役などなど。日本のオペラでも三木稔作曲の「春琴抄」の春琴。東京文化会館リニューアルオープン記念公演・原嘉壽子作曲「脳死を超えて」の森子。そして関宮芳生作曲「鳴神」の雲の絶間姫役と様々な役柄をもこなす歌姫である。北日本新聞芸術奨励賞受賞、新川地区発展賞奨励賞を受賞。二期会会員。



ソプラノ 阪口 直子 アルト

武蔵野音楽大学卒業。東京芸術大学大学院修了。三池三郎、G.ファヴァレットの各氏に師事。武蔵野音楽大学在学中に《コジ・ファン・トゥッテ》ドラベッラ役で出演。大学院在学中にはヴェルディ《レクイエム》及びバッハの《短調ミサ》のアルト・ソロを務める。1984年度文化放送音楽賞受賞。1985年イタリア・シエナのキジャーナ音楽院夏期講習に参加し、最優秀賞を受賞。《第九》《メサイア》をはじめ、ヴィヴァルディとベルゴレージの《スタバト・マーテル》、バッハ《クリスマス・オラトリオ》、モーツァルト《レクイエム》《ハ短調ミサ》、ロッシーニ《小莊厳ミサ》、メンデルスゾーン《エリア》(N響定期、サバリッシュ指揮)、ブラームス《アルト・ラブソディー》、マラー《交響曲第2番[復活]》等のソリストとして活躍。オペラではチェステイ《オロンテア》コリンド、モーツァルト《フィガロの結婚》マルチェリーナ、ロッシーニ《ランスへの旅》メリベア侯爵夫人を演じる。国立音楽大学非常勤講師。アンサンブル(BWV2001)メンバー、日本ロッシーニ協会会員、日本フォーレ協会会員。



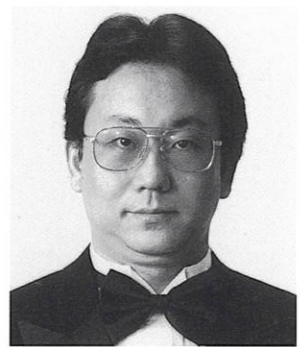
テノール 五十嵐 修

武蔵野音楽大学声楽科卒業。森敏孝、渡辺一夫の両氏に師事。第14回イタリア声楽コンクール/シエナ大賞(第1位)並びにテノール特賞受賞。第20回日伊声楽コンクール/第2位入賞。第53回日本音楽コンクール/第2位入賞(1位該当者なし)。イタリアに於いて故マリオ・デル・モナコ氏に師事しディプロマを授与される。モーツァルト「魔笛」(タミーノ)でオペラデビュー。その後、ヴェルディ「椿姫」(アルフレード)、「シモン・ボッカネグラ」(ガブリエーレ)、「リゴレット」(マントーヴァ公爵)、「イル・トロヴァトーレ」(マンリーコ)、「ドン・カルロ」(ドン・カルロ)等、数多くのオペラに於いて主役を演じ、その豊かな感受性、優れた音楽性は常に高い評価を受けている。また創作オペラでは、その明確で美しい日本語歌唱と気品高い舞台姿で好評を博している。コンサートではベートーヴェン、《第九》《莊厳ミサ》、ヘンデル《メサイア》、モーツァルト《レクイエム》等のソリストとして東京をはじめ全国各地のオーケストラと共演。童謡から宗教曲まで幅広いレパートリーで活躍している。尚、昨年公演されたゾルターノ「アンドレア・ジョニエ」でタイトルロールを演じ、圧倒的な歌声と演技で聴衆を魅了した。桐朋学園大学音楽科非常勤講師。二期会々員。



バリトン 末吉利行

東京芸術大学卒業、同大学院修了。畑中良輔、平野忠彦、田中万美子、河合武彰の各氏に師事。宗教曲のソリストとして極めて高い評価を受け、またドイツリートや日本歌曲のコンサートも多く、「第九」などオーケストラとの共演でも活躍している。オペラでも、「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロール、「フィガロの結婚」の伯爵、「ラ・ボエーム」のマルチェロとジョナール、「蝶々夫人」のシャープレス、「椿姫」のジェルモン、「愛の妙薬」のベルコーレ、「サロメ」のナザレ人など多くのレパートリーを持ち、1996年から「カルメン」のエスカミーリョ、「コシ・ファン・トゥッテ」のグリエルモ、「魔笛」のパパゲーノ、「道化師」のシルヴィオで連続して二期会本公演に出演し、その存在感ある歌唱と幅広い演技力で注目を集め、1997年ジロー・オペラ新人賞を受賞した。最近では「こうもり」のファルケ、「フィガロの結婚」のフィガロを歌い、新国立劇場の「魔笛」「サロメ」「ホフマン物語」にも出演している。
2002年4月には、高木東六作曲、オペラ「春香」に房子役で出演。軽妙な演技と表現力豊かな歌唱で高評を得た。二期会会員。横浜シティオペラ会員。現在、愛知県立芸術大学助教授。東京芸術大学、洗足学園大学講師。



歡喜の歌

《ベートーヴェンの自作》

おお、友よ、この音楽ではない。
もったところよい、
もっと喜びに満ちた音楽を、
われわれはかなでよる。

《F. シラー原詩》

喜びよ、美しい神々の火花よ、至福の島のエリージウムの娘よ、
われわれは火のように酔いしれて、崇高なところ、おまえの聖所へ踏み入る。
おまえの魔力は世のならわしがきびしく別けへだてたものを
ふたたび結び合わせ、すべての人びとは
おまえのやさしい翼のやすらうところに兄弟となる。
一人の友の友となる大きな成功を得たものは、
やさしい妻をかち得たものは地上にただ一つの魂でも
自分のものと呼びうる者は、その歡喜をともにせよ。
そしてそれらができなかつた者は、
泣きながらひそかにこの仲間から立ち去るがよい。

すべてのものは自然の乳房から喜びを飲む。
すべての善いものも、すべての悪いものも、
自然のバラ色の道を辿ってゆく。自然はわれわれに接吻を与え、
ぶどうと、死の試を経た友を与えた。快樂は虫に与えられた。
そして光の天使ケルブは神の前に立つ。うれし気にひかりかがやく太陽が
壮麗な天界をわたるように、兄弟たちよ、
英雄が勝利に向かってすすむように、きみたちの道を喜ばしく進め。

数百万のひとつとよ、抱き合え。この接吻を、全世界へ。
天空のあなたに愛する父が住んでいるにちがいない。
きみたちはひざまづくか、
数百万のひとつとよ。
創造主に気付くか、世界よ。
天空のかあなたに創造主を求めよ。
星の彼方に彼は住んでいるに違いない。

O Freunde,nicht diese Töne !
Sondern laßt uns angenehmere
anstimmen,und freudenvollere.

Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken, Himmlische, dein Heiligtum!

Deine Zauber binden wieder, was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder, wo dein sanfter Flügel weilt.

Wem der große Wurf gelungen, Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen, Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele sein nennt auf dem Erdenrund!

Und wer's nie gekonnt, der stehle.
Weinend sich aus diesem Bund !

Freude trinken alle Wesen, an den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen Folgen ihrer Rosenspur

Küsse gab sie uns und Reben, Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben, Und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen, fliegen durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet! Brüder, eure Bahn, freudig, wie ein Held zum Siegn.

Seid umschlungen, Millionen! Diesen Kuß der ganzen Welt !
Brüder! überm Sternenzelt muß ein lieber Vater wohnen.

Ihr stürzt nieder, Millionen ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such'ihn überm Sternenzelt!

Über Sternen muß er wohnen.

Program Note 曲目解説

交響曲第九番 二短調 作品125「合唱」

ベートーヴェンが「第九」を完成させたのは1824年の春まだ浅いころのことである。当時すでに53才になっていた彼は聴覚をまったく失っていた。しかし、その偉大なる精神と長年心の中に暖めていたシラーの詩への熱い思いが、この大曲を完成に導いたのである。

ベートーヴェンがシラーの頌歌「歓喜に寄す」に出会ったのは、まだ20代の初めのころ。この詩の底に流れる民主的な思想にたいへん感激したベートーヴェンは、その時からいつかこの詩に曲をつけたい…と願っていたのである。その積年の思いがようやく実行に移されることになったのは47才のとき。実に30年という歳月を経て初心を貫いたことになる。

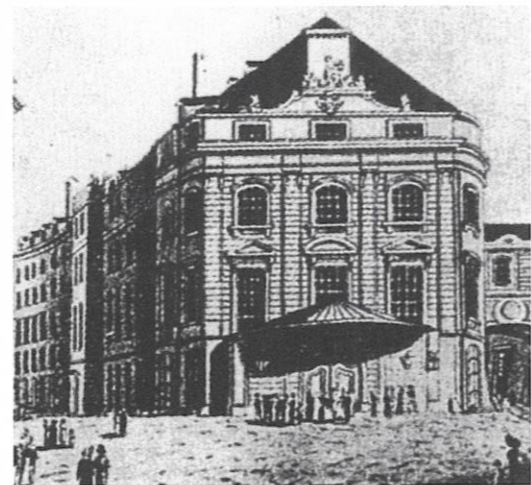
ベートーヴェンはこの偉大なる交響曲で一体何を言いたかったのか。自分自身の苦悩を経て喜びへ、ということだけでは決してないはず。彼は生涯独身であった。しかし、女性にあこがれ、友人を求め、弟や甥などの家族を大切にされた。彼は人間をこよなく愛する人であったこの冒頭の「友よ!」という呼びかけは、すべての友に対するものなのである。自分のまわりの友、世界の友、そして時を越えて、20世紀に生きている私たちにも「友よ!」と語りかけているのだと思う。「みんなで苦しかったことを忘れ、明日に希望をつなごうじゃないか。」とベートーヴェンは言いたかったのではないか。その温かな人間好きのベートーヴェンの心情が音楽から感じられるからこそ世界の人々にこんなにこの曲が愛されているのではないだろうか。彼はモーツァルトのように天才とは呼ばれないし、バッハのように家庭に恵まれたわけでもない。そしてシューマンのように繊細とも評されないし、ショパンのように容姿に恵まれたわけでもない。ベートーヴェンは努力の人といわれ、私たち普通の人間の代表格のような親密感を備えている。そんな感情を持ったベートーヴェンが、すべてのものに対する愛がいかに大切かということ、その音楽で訴えていると思う。

◆第1楽章 Allegro ma non troppo un poco maestoso

広大な宇宙を思わせる神秘的な力強い旋律が、壮大な交響曲の開始を告げる。これは人生の苦悩や悲しみ、希望や慰めなどあらゆる感情が表現されている楽章である。ベートーヴェンは自分の生涯を振り返り、人生を戦いに例えたのではないだろうか。劇的で強いメッセージを持つ、幕開けにふさわしい音楽である。

◆第2楽章 Molto vivace

弦の鋭い響きが全体に躍動感を与えている。また、ティンパニの小気味よいリズムも印象的である。これは初演時に大きな喝采を持って迎えられた楽章である。衝撃的なティンパニの独奏は当時の人々を驚かせ、アンコールの拍手がなりやまなかったとか。魂が浄められるような美しさそしてユーモアの精神も感じられる。



「交響曲 第九番」が初演された、ウィーンのケルントナーア劇場。

◆第3楽章 Adagio molto e cantabile

美しいゆるやかな楽章で、神への感謝を表すような祈りの気持ちが表現されている。やすらかな主題の変奏にはさまれた中間部が特に美しく歌われる。終わり近くのホルンの長いソロは、この時代としては画期的な用いられ方だったよう。歓喜を前にしたやすらぎを感じさせ、来るべき何物かに心の準備をうながすかのようなのである。

◆第4楽章 Prest-Allegro assai

プレスト（きわめて速く）のファンファーレから始まり、低弦が何かを語りかけるようにレシタティーヴォを奏でる。続いてこれまでの3つの楽章の主題が少しずつ順番に現われてはそのたびにレシタティーヴォが打ち消し、そしてついにはあの「歓喜の主題」が聞こえてくる。やがて大音響とともにバリトン独唱によって「おお、友よ、このような調べではなく、もっと快い、喜びに満ちあふれた調べを歌おう」と力強く歌われ、独唱、重唱、合唱、オーケストラを一体化した歓喜の合唱「抱かんもろ人よ、心あわせて…」が始まる。歌はオーケストラに従うことなく、またオーケストラは歌に従うことなく、互いに豊かに融合し合っているのである。

ヨハン・シュトラウスII世： 喜歌劇「こうもり」序曲

ヨハン・シュトラウスII世（1825～1899）のオペレッタは16曲あるが、その最高傑作が1874年に初演された「こうもり」である。浮気なアイゼンシュタインが、「こうもり」という仇名をもつ友人ファルケの計略で、妻ロザリンドや女中のアデーレなどに散々からかわれる…というコミカルなストーリーが、ワルツ王らしく美しいワルツをふんだんに散りばめた軽妙な音楽で綴られていく。

序曲はオペレッタ全体からとられたいくつかの主題を接続して作られている。アレグロ・ヴィヴァーチェの総奏によるオープニングのあと、アレグレットでオーボエに出る旋律は第3幕の三重唱、トゥッティの再現のあとで鳴る時計を模した音型は第2幕フィナーレ、次のワルツは第2幕で一同が踊り歌う曲、アンダンテオーボエの歌う哀しげなメロディとそれに続くポルカ調の音楽は第1幕の三重唱、というように構成されている。これらの主題が入り混じって盛り上がり、ピウ・ヴィーヴォの華やかなコーダで曲を閉じる。



1874年の初春、シュトラウスII世は、この家に6週間の間とじこもり、妻ヘンリエッテ以外の誰とも会わずに、寝食を忘れて、「こうもり」の作曲に専心した。

Chorus 黒部で第九を歌う会

ソプラノ
 朝野優美子 荒崎めぐみ 伊勢ふじえ 魚津 昭子 大田ゆかり 大辻 智子
 角本 睦子 川尻久美子 近藤 桂子 佐々木彰子 沢田みどり 島 さとみ
 清水 順子 杉沢 禎子 高見 玲子 立花由紀子 辻 幸恵 中村 順子
 長田 雅子 西山 靖子 箱井千恵子 花岡 美帆 幅口 史子 平野 朝子
 廣川 慶子 松谷しのぶ 間部 澄子 丸山 里香 三浦 博子 村椿 尚美
 森山 静子 森 律子 保田 和子 横田 憲子

アルト
 朝田美尾子 石塚美紗緒 伊東 宣子 稲守千榮子 岩井 清美 大野 順子
 大割 繁子 荻野 敦子 叶井 陽子 川瀬 禮子 木井 容子 岸上七百度子
 木本久美子 草野 洋子 熊野 幸子 近藤外喜子 沢泉 好美 篠崎富美子
 島先ゆかり 大上戸美智子 高戸 章子 高緑不二子 高村 広子 宝田 良江
 竹 美世子 立野 富子 得能真智子 徳本しのぶ 高村 富美子 東狐 和
 中川 玲子 中坂 陽子 中島二美子 中松 和子 七沢 幸子 南部 富子
 能島 京子 橋元美輪子 秦 香織 花岡 光子 晴披 富子 平山 順子
 藤田 貴子 舟本 順子 堀田 清子 前田 ふさ 松尾 珠美 松村美智代
 南塚美代子 宮田 淳子 村井 富子 村瀬 靖子 森 多加子 森田 優子
 安原 麗子 山越 明代 山瀬由美子 余西 典子

テノール
 伊東 景治 魚谷 国勝 大野 久芳 籠浦 裕 越 雄一 紺屋 範雄
 南保 弘幸 八川 進 幅口文史朗 広野 誠 福島 光繁 藤田 信幸
 松倉 正機 松原 英樹 宮崎 昌訓 武藤 光俊

バス
 石倉 康宏 川ノ上 聡 黒田 謙一 佐藤 宇 佐原 壮也 島倉 敏夫
 神保 茂久 大上戸里志 立花 睦英 田中 義三 田中 義郎 土肥 弘幸
 長谷川和衛 松谷 茂樹 武藤 憲夫 村瀬 菫雄 村川 正治 米田隆太郎

黒部で第九を歌う会役員

会長/森丘 實
 副会長/松倉 正機 武藤 憲夫
 顧問/宮腰 光寛 大野 久芳 横山 栄 松島 一郎
 参与/伊東 景治
 監事/南保 弘幸 島倉 敏夫
 事務局長/三井 適夫
 事務局次長/三井 香
 理事/田中 義三 広野 誠 幅口文史朗 藤田 信幸 越 雄一
 前田 ふさ 高岡 尚子 杉沢 禎子 森 律子 朝田美尾子
 角本 睦子 三浦 博子 大坪由美子 晴披 富子 松谷 茂樹
 篠崎 秀一 (富山シティフィル)
 合唱指導/三井 香
 合唱伴奏/林 亜希子 法原留美佳

黒部第九友の会会員 会長 堀内 三郎

四十物直之 四十物昆布株式会社	草野洋子 第九を歌う会会員	堀田清子 第九を歌う会会員
朝倉秀芳 (有)カーメンテナンス朝代表取締役	野幸子 第九を歌う会会員	前田ふさ子 第九を歌う会理事
朝田美尾子 第九を歌う会理事	神谷尚機 板井交通(株)代表取締役	松井敦英 樹子 第九を歌う会会員
浅野博 浅野ヒック家具工業(株)社長	近藤外喜子 第九を歌う会会員	松原村美智代 第九を歌う会会員
伊東景治 第九を歌う会参与	島倉敏夫 第九を歌う会監事	三浦博子 第九を歌う会理事
伊東宣子 第九を歌う会会員	杉沢禎子 第九を歌う会理事	三宮井田淳子 第九を歌う会会員
稲守千榮子 第九を歌う会会員	高岡尚子 第九を歌う会会員	宮武藤富子 富山短期大学教授
岩井恵澄 愛児保育園園長	高見玲子 第九を歌う会会員	村瀬茂 第九を歌う会会員
岩井清美 第九を歌う会会員	高立野富子 第九を歌う会会員	森井憲實 第九を歌う会会長
植木真人 (株)植万代表取締役社長	辻和子 第九を歌う会会員	森森多加子 第九を歌う会会員
魚津昭子 第九を歌う会会員	東狐和子 第九を歌う会会員	森山直人 富山市
魚谷国勝 第九を歌う会会員	中野雅保 第九を歌う会会員	森山静子 第九を歌う会理事
大坪由美子 第九を歌う会理事	中谷唯子 第九を歌う会会員	森山越明 第九を歌う会会員
大坪作麿 (株)生地第一温泉代表取締役	中七沢保弘 第九を歌う会監事	山越澤 第九を歌う会会員
大野衣料店 黒部市	南能島京美 第九を歌う会会員	山瀬由美子 第九を歌う会会員
大野順子 第九を歌う会会員	橋元美輪子 第九を歌う会会員	横田重子 第九を歌う会会員
大割繁子 第九を歌う会会員	長谷川光一 東洋ゼンマイ(株)代表取締役	吉田商會(株)代表取締役社長
荻野敦子 第九を歌う会会員	八川進子 第九を歌う会会員	
小熊房江 第九を歌う会会員	岡光富子 第九を歌う会理事	
桶屋正睦 第九を歌う会理事	晴披富子 第九を歌う会理事	
角本睦子 第九を歌う会会員	岸上七百度子 第九を歌う会会員	
籠浦裕子 第九を歌う会会員		
木井容子 第九を歌う会会員		
岸上七百度子 第九を歌う会会員		



あいうえお順 (敬称略)

皆様のあたたかいご支援により第7回名水の里 第九コンサートを開催することができました。

川端鐵工(株)

黒部市生地芦区247
☎0765-56-8163

北日本新聞社

富山市安住町2-14
☎076-445-3300

黒部クリーン(株)

黒部市北野47-2
☎0765-52-0047

黒部ロータリークラブ

黒部市植木23-1
☎0765-54-3330

黒部中央ロータリークラブ

黒部市三日市3786-1
☎0765-54-4445

(株)サニードライブロダクト

黒部市堀切1525-1
☎0765-54-2700

菅野印刷興業(株)

黒部市若栗2630
☎0765-54-0112

装苑ひろの

黒部市牧野311 (メルシー内)
☎0765-54-1203

(有)タートルライン

黒部市石田6923-1
☎0765-54-4312

第一建設(株)

黒部市飯沢1077
☎0765-56-8125

棚山ゴルフ倶楽部

朝日町棚山
☎0765-84-8800

東都ガステック(株)

魚津市北鬼江2327
☎0765-22-6800

(株)トヨックス

黒部市前沢4371
(本社) ☎0765-52-3131

(株)ニイカワポータル

黒部市新牧野152
☎0765-54-5355

北陸機材(株)

富山市赤江1-17-1
☎076-441-5411

ホテルアクア黒部

黒部市天神新353-1
☎0765-54-1000

(株)堀内商会

黒部市荻生6855
☎0765-54-0511

松倉呉服店

黒部市三日市3177
☎0765-54-0529

(株)ミツイ

黒部市中新398
☎0765-52-0092

(株)山口技研

入善町道古
☎0765-72-4344

宮腰工業所

黒部市石田6966
☎0765-52-1811

生地温泉 たなかや

黒部市生地吉田新230 ☎0765-56-8003

黒部ライオンズクラブ

会長 森野 泰夫

黒部金融協会

YKK AP株式会社

YKKエンジニアリング株式会社

YKKクリーンアンドグリーンサービス株式会社

YKK警備株式会社

YKKテクナート株式会社

YKKビジネスサポート株式会社

株式会社YKKツーリスト

株式会社YKK保険サービス

黒部石油販売株式会社

黒部製函株式会社

株式会社エッセン

株式会社エムテック

アドバンステック株式会社

YKK株式会社